

長畑ひろのり News vol.130

(C) 2013 Kohama Studio

9月定例議会における一般質問

今回は3問の質問をし、そのうちの1問を報告します。

・学校再編整備計画について

この質問に関しては、ここまで計画が長期に渡った理由から、土砂災害や活断層、そして建物の耐震についてと多くの質問をしたため、とても紙面にまとめることが出来なくなりました。そこで、普段の一問一答形式ではなく、全体をまとめた形で報告させていただきます。

平成42年以降、本市の西部地区において国道163号より北側に小学校は1校から2校、そして南側に1校、また中学校は1校でもやっていける時代が来る可能性があるということです。しかし、その数の学校でもやっていける児童生徒数と言うだけで多少無理があり、ベストな状態でその学校数を迎えることになるのは、今から20年ほど先になるのではと思っています。

その時、国道163号から北に小学校が2校となりますと、忍ヶ丘小学校、岡部小学校がバランス的には良いと思います

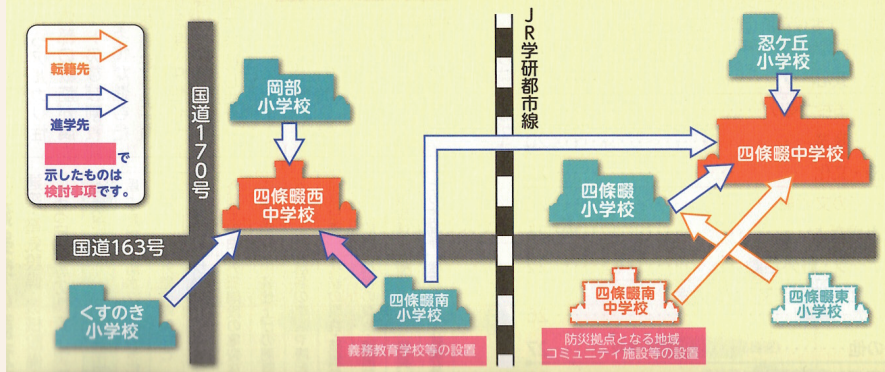
し、国道163号から南側は四條畷南小学校かくすのき小学校のどちらかを選択することになるかも知れません。

そして、中学校は1校なので西部地区の真ん中である四條畷小学校の場所が良いと思います。ただ、四條畷小学校を中学校として使うには敷地面積が狭いので西側にある店舗の用地買収が必要となるでしょう。しかし用地買収に多額な予算を使うのであれば、20年後に活断層の調査研究や耐震に対する

建物の研究が進んでいる時代が来ていないとも限りません。そういう時代が来ているのであれば、四條畷小学校の国道163号を隔てた向かい側にある四條畷南中学校が西部地区唯一の中学校としても良いと思います。

何が言いたいのか、今回で学校の適正配置が終わりではないということです。本市の人口推移が国立社会保障・人口問題研究所の公表している通りであるならば、もう一つ先を見据えなければならないのです。そのためにも、今回、学校適正配置審議会の結果が教育委員会の絞り込んだ案通りであったとしても、その後を見据え、**廃校になった学校用地は単に処分することなく、災害時の防災拠点とするなり、子ども達がキャッチボールをすることのできる広場も必要でしょう。できれば、活断層の通っている位置は公園とし活断層の直上には大きな木を植え人が近づかないような囲いをして頂きたい。また、スポーツ施設として体育館を作る等、地域にとってより安心安全で他市から引っ越したくなるような魅力あるまちづくりの一助として利用して頂きたいと要望致します。**

教育委員会で絞り込んだ案



まず、9月15日発行の本市広報誌に掲載された上図の通り、教育委員会で絞られた案について、議員としてその是非を言うべきでないこと、そして、**この案が今後開催される学校適正配置審議会で決定する前提で質問すること**を述べました。そこで、まず下記の内容を質問に絡め要望しました。

- 1) 四條畷南中学校東側を南北に走る道路は歩道が途中で途切れ危険との指摘をし、四條畷南中学校グラウンドの擁壁に面して歩道の設置を含んだ道路の拡幅。
- 2) 小規模校として残ることとなった四條畷南小学校のデメリットを解消するための教員の加配配置や小規模校の適正を活かした取り組みの推進。
- 3) 学校適正配置審議会委員に、地域の声を大事にして頂きたく当該地域の代表を選出。
- 4) 土砂災害と地震とが合わさった時の被害検証。

最後に、学校再編整備計画について、私の思いや考えを要望と共に次のように述べました（裏面にも続く）。

毎月発行している“長畑ひろのり News”を、約半年ごとに送っています。送付の必要な方は、送付先をFAXもしくはe-mailにてお知らせ下さい。

長畑ひろのり事務所 FAX 072-877-1280

e-mail sky@nagahata.jp

<http://nagahata.jp>

Instagram

mixi

twitter

facebook

〆〆〆

(表面より) それでは最後になりますが、学校再編整備計画については、市の職員はもちろんのこと、市議会も、そして市民皆様方も、地域のことを考えれば1校たりとも廃校を望んでいたのではない、その思いは同じだと思います。そうした中で、児童生徒のことを考え、考え抜いた上での結果であるのは間違いありません。この結果がどうではなく、まずはここまで大変な思いをされた時々の市長、教育長を始め、担当部署の皆様方に心よりお礼を申し述べ、加えて、地域の方々にはここまで長きに渡り案を絞ることができずお詫び申し上げます。

814 市区内での本市実力 (前編)

毎年この市政報告へ載せ、本市の実力や他市との比較がわかると好評の「都市データパック」を、今年も2018年版を購入しました。そこで、本市を含む北河内7市に上位と下位を加えたものを表にまとめましたので報告します。対象は、東京23区を含む全国814市区です。また、書籍では他にもランキングが載っていますが、次号以降で報告する予定です。



・住みよさランキング

住みよさランキングとは、さまざまな分野の公的統計を用いて算出した全国各都市の“都市力”を表したもので、住民の生活場面に応じた「安心度」、「利便度」、「快適度」、「富裕度」、「住居水準充実度」の5つのカテゴリーに分類し、ランク付けを行っています。

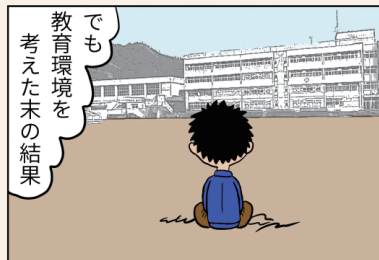
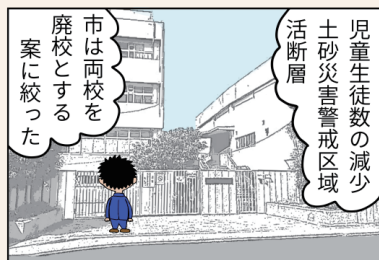
総合順位	市名(都道府県)	安心度の順位	利便度の順位	快適度の順位	富裕度の順位	住居水準充実度の順位
1	印西(千葉)	123	10	3	58	199
2	長久手(愛知)	19	6	7	36	723
3	名取(宮城)	84	16	4	251	463
4	守谷(茨城)	414	52	11	62	436
5	中央区(東京)	112	25	6	1	807
210	交野(大阪)	602	98	323	330	402
340	守口(大阪)	637	7	295	285	753
443	寝屋川(大阪)	542	17	507	401	671
459	四條畷(大阪)	685	65	444	400	596
504	大東(大阪)	667	53	473	311	700
625	門真(大阪)	712	8	502	350	773
650	枚方(大阪)	698	618	416	235	617
812	土佐清水(高知)	792	796	802	786	267
813	夕張(北海道)	771	813	690	807	759
814	歌志内(北海道)	811	812	537	814	748

昨年と比べますと、今回は「安心度」と「利便度」の指標を変更したため、北河内7市の中でも順位が変わりました。特に昨年までの「利便度」は、北河内7市とも57位と同じだったのですが、7位から618位の範囲となり大きな差となっています。その結果として、「利便度」が618位の枚方市は、昨年の総合順位320位から大きく下げました。逆に「利便度」が7位の守口市は、昨年の総合順位418位から少し上げることとなりました。

本市3年間の総合順位を見ますと、390位→400位→459位と落とす一方で、昨年は「安心度」の順位512位が、685位となり足を引っ張ったようです。他の4つのカテゴリー順位を上げるのは難しいのですが、**「安心度」の順位は取り組み次第で良い結果になると思いますので、この点については今後とも努力が必要と考えます。**

また府内では、総合23位(前年は63位)の箕面市がここ数年は1位で、府内に住まわれている方のイメージ通りではないかと思えます。しかし、カテゴリー別では「利便度」62位、「快適度」98位、「富裕度」52位ではありますが、「安心度」においては177位と飛び抜けて良いこともなく、特に「住居水準充実度」では664位と本市より悪い結果となっています。以降の順位は、府内2位が総合44位の吹田市、同様に

東小学校、南中学校



3位が51位の摂津市、4位が65位の大阪狭山市、6位が71位の豊中市、7位が97位の大阪市と続いています。

総合順位では、千葉県印西市が1位で、今回を含め7年連続と素晴らしい結果です。

